

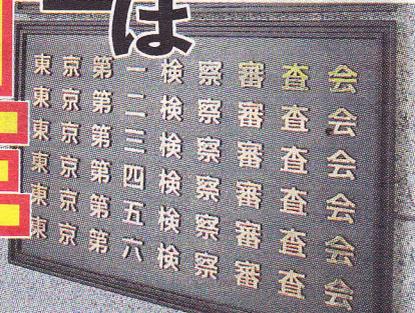
小沢強制起訴は最高裁の謀略なのか

検察審査員

選定ソフト

候補者名簿管理システム

イカサマ自在



なっている。中立性を担保できないが、実際、セキュリティ上もはエクセル問題だ。しかもこのソフトウェアで、総額6000万円と作られた名簿を目をむくほど高額なもので読み込みがある。これだけの血税をめます。つぎ込んで、欠陥ソフトま、候補をわざわざ導入する必要者名簿に名があったのか。

実際、「それまでは商店街の抽選会などで見かける。ガラガラ抽選器」を使っている、特に不自然はすべて不適格(係者)という。

「確かに、以前はガラガラでやっていただけと聞いています。ただ、ソフトの導入やその時期、運用に関しては、最高裁事務局で決めたと、こちらでは分かりません」(東京検察審査会・手嶋健総務課長)

「操作マニュアル上は、係者」

「選定ソフトにイカサマされた平均年齢は2回と

今週17日、民主党の小沢にもかかわらず、「推認」一郎元代表の公判で証拠採の積み重ねで有罪にされた用可否が決まる。焦点は、小沢強制起訴の唯一の「証拠に基づく」なんて大根拠となった元秘書・石川ウソ。小沢裁判では何が起知裕衆議員の供述調書がきてもおかしくない。

証拠採用されるかどうか。ここへきて、強制起訴にだ。もつとも、裁判関係者至った。経緯にも不信のは「証拠採用で一喜一憂し目が向けられている。強制起訴を議決した「検察審査秘書3人の裁判では、検察会」の審査員選定に関する調書の大部分が「信用できて、重大疑惑が浮上していない」として却下された。なのだ。

「すべて事務局が決めたこと」

「検察審査員は、各地の選挙管理委員会が選挙人名簿から抽出した100名の候補者名簿をもとに、「検察審査員候補者」を選定ソフトを使って、10ないし12人の審査員・補充員が「無作為に」選ばれることになっている。

ところが、本紙が選定ソフトの内部資料を入手し、検証してみたところ、「作画的に」審査員を選定することが可能なことが分かった。

選定ソフトに詳しい関係者が言う。

「操作マニュアル上は、係者」

「選定ソフトにイカサマされた平均年齢は2回と

ざるし、一致はあり得ない」と疑問視されていた。

やはり、「黒幕」は最高裁事務局なのか。小沢を抹殺するための謀略を仕掛けたのが最高裁だとすれば、恐ろしいことだ。この国には、公平・公正な司法も、正義も存在しないことになる。